

北海道IRの基本コンセプト (たたき台)

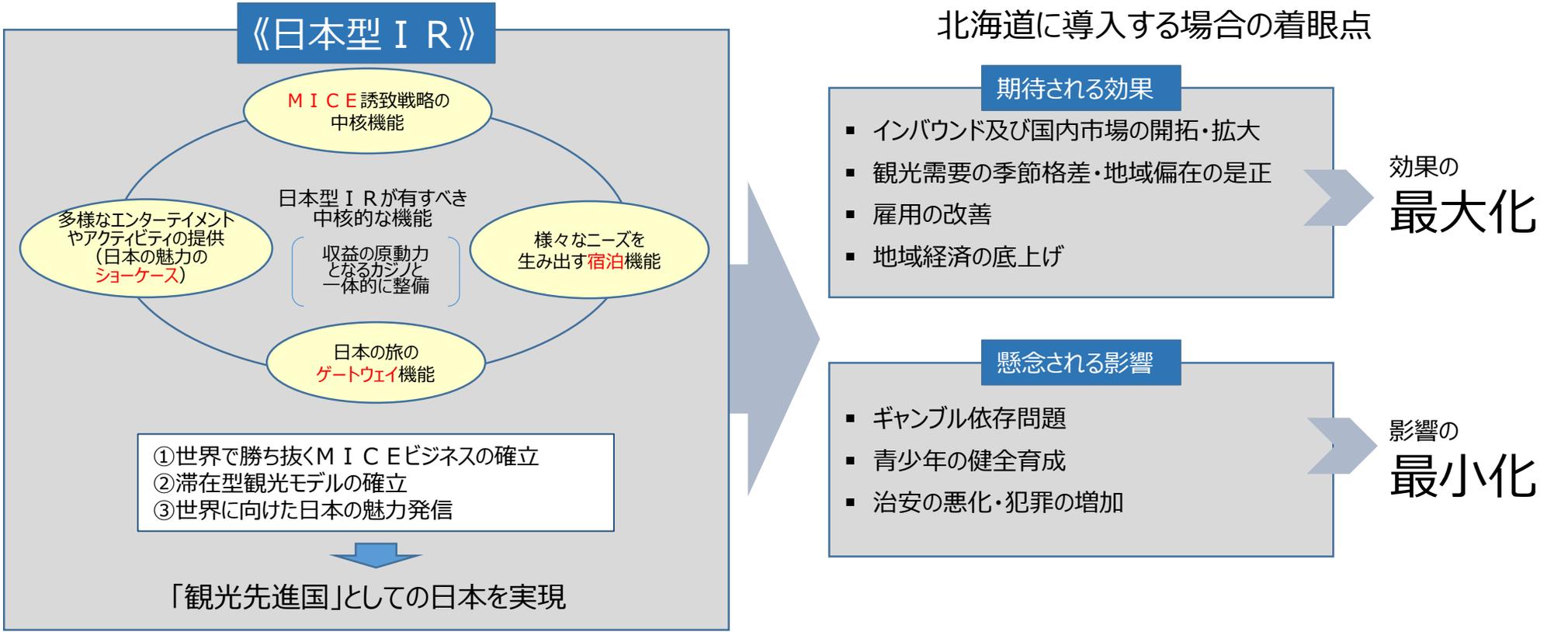
第2回 特定複合観光施設（IR）に関する有識者懇談会

平成30年8月30日

北海道経済部観光局

1. IR導入の意義及び着眼点

- ・ 国が導入を目指すIRは、これまでにないスケールやクオリティを兼ね備えた多種多様な集客・送客機能を一体的に整備し、国際競争力の高い滞在型観光の実現を目指すもの。
- ・ 本道へのIRの導入は、新たな観光市場の開拓のみならず、本道観光の課題である季節格差や地域偏在の是正、さらには雇用の改善や地域経済の底上げなど、大きな効果が期待される。
- ・ 一方で、IR全体の採算性を確保するための原動力となるカジノについては、ギャンブル依存問題などの社会的影響を最小化することが必要。IRの導入に当たっては、法に基づくカジノ規制の実効性を高めるとともに、既存のギャンブル等も含めた依存対策を強力に推進し、道民の不安の解消を図ることが不可欠。



2. IR導入の効果(シミュレーション)

- ・ 道内にI Rを整備した場合、I Rへの訪問者数は、年330～860万人、I R全体の売上高は、年約500～1,560億円と試算。
- ・ 需要予測を前提とした経済波及効果は、約640～2,000億円、就業誘発人数は、6,800～21,000人と試算。
- ・ 前提条件に不確定要素が多いものの、I Rの導入は、道内経済に大きなインパクトをもたらすことが期待される。

◆ 誘致をめざす道内3地域にI Rを整備した場合の需要予測

	釧路市	苫小牧市	留寿都村
I R訪問者数(千人)	3,356	8,685	4,738
うちゲーミング参加者数	1,338	4,148	2,232
I R売上高(億円)	504	1,562	840
うちゲーミング売上高(M a s s層)	234	726	391
うちゲーミング売上高(V I P層)	78	242	130
うちノンゲーミング売上高	192	594	320

* 各候補地の周辺人口、訪問者見込み数、交通アクセス等を考慮の上、一定の条件を仮定し、試算

◆ 需要予測を前提とした経済波及効果(参考)

	釧路市	苫小牧市	留寿都村
最終需要額(建設投資を除く)(億円)	504	1,562	840
直接効果①(億円)	402	1,247	671
一次生産誘発効果②(億円)	147	455	245
二次生産誘発効果③(億円)	93	289	155
生産誘発額 合計 ①+②+③(億円)	642	1,991	1,071
就業誘発人数(百人)	68	210	113

* 北海道が作成した「経済波及効果分析支援ツール」を使用し、試算



⇒ 今後、候補地を特定し、I Rの機能、施設、規模などのイメージを明確にした上で、より精緻な需要予測や建設投資も含めた経済波及効果の試算を実施

3. 懸念される影響対策の方向性

- ・ 国では、I Rに併設されるカジノによる社会的影響の低減に向け、シンガポール等の成功事例を参考に、世界最高水準の規制を法制化。
- ・ 本道にI Rを導入する場合には、法に基づくカジノ規制の徹底を図ることに加え、事業者や地元自治体と連携した独自の取組を重層的に行うなど、より実効性の高い依存対策を実施し、影響の最小化を図る。
- ・ 併せて、既存ギャンブル等も含めた依存症対策を総合的、計画的に実施することにより、I R導入の有無にかかわらず、ギャンブル等の依存問題を抱える方々の総数や割合を減少させる。

〈カジノに関する依存症対策〉

I R整備法に基づくカジノ規制
<p>【入場規制等】 入場回数制限 連続する7日間で3回、28日間で10回以内 入場料 6,000円 マイナンバーカード等による入場管理 等</p> <p>【金融業務の規制】 日本人等への与信業務の制限(一定額の預託) クレジットカードによるチップ購入は外国人に限定 等</p> <p>【事業者による依存症対策の実施】 本人・家族の申告による入場制限措置、 相談窓口の設置、内部管理体制の整備 等</p>
+
北海道独自の取組
<ul style="list-style-type: none"> ▪ カジノ規制の実効性を高めるための自主的な取組（事業者＋行政） ▪ 広報、啓発活動 など <p style="text-align: center;">* 取組の方向性は今後検討</p>

〈ギャンブル等全般に関する依存症対策〉

ギャンブル等依存症対策基本法に基づく国の施策
<p>【体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣官房長官を本部長とする推進本部を設置 ・本人・家族の代表者、関係事業者、有識者等の関係者会議を設置 ・基本計画の策定（3年ごとに見直し） <p>【基本的施策】</p> <p>①教育の振興等 ②予防等に資する事業実施 ③医療提供体制 ④相談支援等 ⑤社会復帰支援 ⑥民間団体支援 ⑦連携協力体制 ⑧人材確保 ⑨調査研究 ⑩実態調査</p>
+
北海道における取組
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 総合的な依存症対策を推進するための体制整備 ▪ ギャンブル等依存症対策基本法を踏まえた対策の推進 など <p style="text-align: center;">* 取組の方向性は今後検討</p>

健全で安全なカジノの運営・利用の徹底

依存症の段階に応じたきめ細かい対策

カジノ納付金等の財源を効果的に活用し、北海道発の依存症対策モデルを構築

4. 北海道に相応しいIRの機能・施設 — 基本コンセプトイメージ —

- 日本の他地域にはない北海道の優位性を存分に活かした「アジア・オンリーワンの統合型リゾート」をめざし、その理念に相応しい中核施設群の一体的整備を図る。
- 最大の顧客ターゲットである海外富裕層のニーズに応え、かつ、国内外の多様な客層にとって、何度でも訪れたい魅力ある空間を創造する。
- 国土の22%を占める北海道の広域性に着目し、道内の観光地の結びつきを高め、I Rを核としたクオリティの高い周遊観光を促進する。（=グレーター I Rの実現）

《北海道 I Rに相応しい機能・施設（イメージ）》

世界が注目する「北海道価値」



アジア随一の
ウィンター・リゾート



明瞭な四季と
美しく雄大な自然



独自の歴史・文化



良質で豊富な食

交流集客機能	M I C E 施設	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設やアミューズメント施設等との一体的整備を図り、これまでにないオールインワンの高付加価値型サービスを提供 M・I・C・Eそれぞれの分野に応じた多機能型の施設整備を指向 北海道全体のM I C E 誘致戦略の中核となる施設と位置づけ
	宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> 日本を代表するハイグレードなホテルを中核に、利用者の幅広いニーズに対応できるバラエティに富んだ宿泊施設を整備 北海道らしい自然指向の滞在生活が体験できる施設を併せて設置 M I C E 施設との一体性、連動性を重視 ユニバーサルデザインの導入
ショーケース機能 (魅力増進施設)		<ul style="list-style-type: none"> 北海道をまるごと体感できるクオリティの高い機能・施設を常設 「本物」「本場」を味わうことのできるオプションツアーの提供 先端テクノロジーを活用し、イノベーションの創造に寄与 ナイトエンターテインメントを充実
ゲートウェイ機能 (送客機能施設)		<ul style="list-style-type: none"> I Rへの訪問客を道内各地の観光地に送り込む機能をハード・ソフトの両面から整備 利便性の高い二次交通システムを整備 I Rを拠点とした周遊型旅行をサポートするコンシェルジュ機能をワンストップで提供

4. 北海道に相応しいIRの機能・施設 —MICE施設 ①—

- ・ M I C E施設（国際会議場、展示場等）については、国が求める「我が国を代表する規模」等の要件を満たすことを前提に、宿泊施設やアミューズメント施設等との一体的整備を図り、これまでにないオールインワンの高付加価値型サービスを提供。
- ・ M・I・C・Eそれぞれの分野に応じた多機能型の施設整備を指向。
- ・ 札幌市に建設予定の国際会議場をはじめ、道内のM I C E 関連施設との連携・機能分担を基本に、北海道全体のM I C E 誘致戦略の中核となる施設と位置づけ。

《ターゲットに応じたM I C E機能・施設（イメージ）》

対象分野	ターゲット	求められる機能・施設	
Meeting	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内及びアジア企業が主催する各種会議・研修等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多機能で汎用性の高い会議室 ● 北海道らしいユニークベニュー ● 自動翻訳など最先端のA I、I o T技術の活用 	<p>多様な付加価値を提供出来るユーザーオリエンテッドな機能・施設を一体的に整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊、バンケット機能 ・オプションツアー ・アミューズメント機能 etc.
Incentive (Travel)	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内及びアジア企業のインセンティブツアー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者の規模やグレードに応じた宿泊施設、宴会場 	
Convention	<ul style="list-style-type: none"> ● 政府系国際会議 ● 国内外の主要な学会、全国大会等（医学系、自然科学系） 	<ul style="list-style-type: none"> ● ハイグレードのメインホール（客席5,000人規模） ● 多機能で汎用性の高い相当数の会議室 ● 自動翻訳など最先端のA I、I o T技術の活用 	
Exhibition/ Event	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネス系大規模展示会・見本市 ● スポーツ、音楽系フェスティバル等のイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内有数の展示スペース ● 多様なイベント開催に活用できる屋外施設 	

4. 北海道に相応しいIRの機能・施設 —MICE施設②—

《 I Rを核とした北海道M I C E誘致の展開イメージ》

【基本的視点】 市場拡大が見込まれる分野、地域をターゲットに、戦略的な誘致活動をオール北海道で実施

《 国 内 》

国内企業主催の
インセンティブツアー
会議、研修

政府系国際会議
大規模イベント（学術会議・見本市・展示会・音楽祭 等）

《 海 外 》

アジア企業主催の
インセンティブツアー
研修旅行

これまでにない大規模M I C Eの誘致、顧客ニーズに応じたきめ細かいサービスなど、市場競争力を飛躍的に強化

札幌

（グローバルM I C E都市）

札幌コンベンションセンター
新M I C E施設(2025開業予定)
各種ホール、ホテル 等

I R

《M I C E機能》
大規模コンベンションホール
多機能型会議室
ユニークベニュー
国内有数の展示スペース
ハイグレードなホテル

道内各都市

函館アリーナ
旭川大雪アリーナ
とかちプラザ
北見芸術文化ホール
釧路市観光国際交流センター 等

北海道M I C E誘致推進協議会

【 現 行 】 北海道及び道内各都市（札幌、旭川、釧路、函館、北見、帯広、登別）の行政・団体に構成
M I C E誘致に向けた情報収集、プロモーション活動等を一体的に実施

【 I R導入後】 I R立地自治体、I R事業者を構成員に加え、より強力な誘致活動を展開

4. 北海道に相応しいIRの機能・施設 — 宿泊施設 —

- ・ 海外のV I P・富裕層の高い要求にも十分応えることができる日本を代表するハイグレードなホテルを中核に、滞在目的、人数、年齢、予算、滞在時間など利用者の幅広いニーズに対応できるバラエティに富んだ宿泊施設を整備。
- ・ グランピング、コテージ、氷の宿など、北海道らしい自然指向の滞在生活が体験できる施設を併せて設置。
- ・ M I C E施設との一体性、連動性を重視した会議場やバンケットホールを設置。
- ・ 国籍、宗教、年齢、障がいの有無を問わず、すべての人にとって快適なユニバーサルデザインを導入。

《北海道 I R に設置する宿泊施設（イメージ）》

体験型宿泊施設

- ・ グランピング、コテージなど、自然指向の体験型宿泊施設



中核宿泊施設

- ・ 世界のV I P・富裕層のニーズに応えるクオリティ、アメニティ、サービスを備えたハイグレードなホテル
- ・ 建造物としての付加価値を高めるデザイン性



一般宿泊施設

- ・ 滞在目的や予算など利用者の多様なニーズに応える宿泊施設（ハイグレードとの一体型も想定）



M I C E 施設との一体性、ユニバーサルデザインを重視

4. 北海道に相応しいIRの機能・施設 —ショーケース機能(魅力増進施設)—

- 広大な北海道の多彩な地域資源（食、自然、文化、冬季スポーツ…）を集約し、北海道をまるごと体感できるクオリティの高い機能・施設を常設。
- I R 訪問者に対し、北海道の魅力を凝縮して発信するとともに、「本物」「本場」を味わうことのできるオプションツアーを提供。
- V R やプロジェクションマッピングなどの映像技術、I C T や I o T などの先端テクノロジーを活用し、イノベーションの創造に寄与。
- 外国人観光客のニーズに応えるナイトエンターテインメントを充実。

《北海道 I R に設置するショーケース機能（イメージ）》

食ゾーン

- 道内179市町村の「一押し」「ハイエンド」のグルメ、食材を堪能できるレストラン街
- 優れたプロダクトが揃う、道産品の魅力を凝縮したショッピングモール



歴史・文化ゾーン

- アイヌの生活・文化や縄文時代の追体験施設（V R による再現、伝統舞踊ショーetc.）



自然・景観ゾーン

- V R を活用し、知床をはじめ日本の世界自然遺産周遊ツアーを疑似体験
- 雪や流氷など「北海道」の冬を通年で体感できる施設



スポーツ・エンタメゾーン

- ウィンタースポーツ、ホーストレッキング、自然一体型アクティビティなどの体験施設
- 雪像へのプロジェクションマッピングやVRを活用したアトラクション



北海道まるごと体感ショーケース

オプションツアーで道内各地の「本場」「本物」を実体験！



4. 北海道に相応しいIRの機能・施設 –ゲートウェイ機能(送客機能施設)–

- ・ IRを拠点とした北海道全体への広域的な周遊を促進し、IRの導入効果を全道に波及。
- ・ 北海道全域を広域の統合型リゾート(グレーターIR)と見立て、IRへの訪問客を道内各地の観光地に送り込む機能をハード・ソフトの両面から整備。
 - 陸海空の交通事業者等と連携し、富裕層やビジネス客、ファミリー層など多様な客層のニーズに応じた利便性の高い二次交通システムを整備。
 - IRを拠点とした周遊型旅行商品の開発、旅行案内や手配の全般をサポートするコンシェルジュ機能をワンストップで提供。

《北海道IRに設置するゲートウェイ・機能(イメージ)》

